

《特集》 近代東アジア文化とプロテスタント宣教師——その研究と展望

序

十九世紀初頭から欧米のプロテスタント諸教派は、本格的にその伝道と活動の場を全世界にむけて展開し始めた。その動態についてはこれまで内外の多くの研究者が注目してきたところである。これらのなかには、キリスト教と帝国主義的植民地の拡大や統治との関連を批判するものがある一方、教会史や宣教師の華やかな一幕として賛美する立場も他方ではある。たしかに「宣教」活動を、聖なる使命を世俗的実践に移行していくプロセスとして眺めれば、これら両極の見解も当然現われることであろう。しかし、二世紀余りつづいてきたプロテスタントの世界伝道を、個々の伝道地およびそれぞれの歴史的、文化的背景と照らしあわせて考察していくと、この両極の立場のいずれかの視点のみで結論づけることは困難である。なぜなら現存する資料や記録を事細かく読み、当時の活動の実態を再構築していくうちに自ら各伝道地で活躍した宣教師の生身の肖像が浮き彫りになってくるからである。つまり、キリストの福音を伝える媒介者であった宣教師たちは、同時に西洋文化と近代化を指向する諸要素の伝播に携ったのも歴史的事実であって、これを一概に肯定することも否定することもできない。

幸いにも、近年では、この問題に正面から取り組む研究者が増えている。とくに、東アジアの近代史におけるキリスト教およびキリスト教文化の受容をテーマにした研究が学界で「市民権」を得たことで、宣教師研究は、歴史学、思想史、文化交流史、宗教学および社会学などの諸分野で注目される存在になってきている。このような関心の高まりのなかで、本特集が世に出ることは、きわめて意義あることと考える。

この論文集は、二〇〇三年における国際日本文化研究センターでの二回にわたる研究会の成果である（付録のプログラムを参照願いたい）。執筆者の多くは、研究会当日、それぞれの研究をもとに、日本をはじめ東ア

ジアにおける宣教師のネットワーク、伝道活動の実態、各地の文化や社会への貢献、外交の場での役割など、多彩な分野からの発表と、これに基づく活発で刺激的な議論を展開していただいた研究者である。また、総括討論のなかで推薦された研究者にもご協力を得て、論文をお寄せいただいたことは、本特集の内容をさらに豊かに仕上げるものであったと全体を眺めながら思っている。本号は、その副題のとおり、現時点での研究の成果ならびに、今後の展望と可能性を提起したものである。新たな課題の発掘につながる契機の一つになれば、編集に携わった者として何よりも嬉しいことである。

執筆者の方々、研究会に参加され貴重なご意見を頂いた皆さまに、心から感謝の意を表したい。最後に、研究会の企画当初から協力を惜しみなく提供された劉建輝助教、ならびに研究会の運営にアドヴァイスやご尽力をいただいた日文研の教職員の方々にあわせて感謝をしたい。

編者 テモテ・カーン

〈付〉 研究会プログラム

主宰 テモテ・カーン（国際日本文化研究センター助教授）

劉 建輝（国際日本文化研究センター助教授）

第一回テーマ 「近代東アジアにおけるキリスト教宣教師・宣教団の活動

―その教会史、交流史、社会史に関する研究状況と展望―」

Christian Missionaries and Missions in Modern East Asia:

Exploring Future Possibilities for Research

近代東アジアにおいてキリスト教は、少なからぬ影響をおよぼしたといえる。現在、その布教と伝道の担い手である宣教師と教団の活動の歴史や社会が多分野の研究者によってあらわになりつつある。本シンポジウムの目的はこれらの成果をふまえ、再検討を行なうとともに東アジア諸地域を総合的に研究する可能性を探ってみたい。

日時 二〇〇三年三月一五日（土）一三・〇〇―一八・〇〇

三月一六日（日）一〇・〇〇―一三・〇〇

会場 国際日本文化研究センター 第3共同研究室

報告 三月十五日(土)

一三・〇〇〇―一四・〇〇〇 「アメリカン・ボード宣教師のネットワーク―日本ミッションの事例」

吉田 亮(同志社大学)

一四・〇〇〇―一五・〇〇〇 「不平等条約と宣教師の法的地位―中国を中心に」

渡辺 祐子(中央大学)

一五・〇〇〇―一六・〇〇〇 「『韓国併合』と在日長老派宣教師」

小檜山 ルイ(東京女子大学)

一六・〇〇〇―一七・〇〇〇 「日本語讃美歌の誕生と宣教師のネットワーク」

手代木 俊一(国際基督教大学)

一七・〇〇〇―一八・〇〇〇 「洋風生活を教えた人々」

川崎 衿子(文教大学)

報告 三月一六日(日)

一〇・〇〇〇―一一・〇〇〇 「宣教師が見たもの、伝えたもの―日本社会観察の展望」

テモテ・カーン(国際日本文化研究センター)

一一・〇〇〇―一二・〇〇〇 「近代中国における宣教師の文化活動」

劉 建輝(国際日本文化研究センター)

一二・〇〇〇―一三・〇〇〇 「在朝鮮プロテスタント宣教師と日本・中国―その研究視角と課題」

李 省 展(恵泉女学園大学)

第二回テーマ 「近代東アジア文化とプロテスタント宣教師」

The Influence of Protestant Missionaries on Modern East Asian Culture

近代アジア文化にプロテスタント宣教師は、少なからぬ影響をおよぼしたといえる。一方では、国内での活動を通じて直接、間接的に旧満州と朝鮮半島へと多くの宣教師、日本人宣教師も含め、送り出すことになった。また、もう一つにそれらの地域で行われた教育、言語政策等、文化交流と文化受容に関わる仕事をすすめることによって、日本との関係を深めることにもなった。本研究会では、この二つの視点から発表をいただき、議論をすすめていきたい。

日時 二〇〇三年七月一日(金) 一三・三〇～一七・三〇

七月一日(土) 一〇・〇〇～一三・〇〇

会場 国際日本文化研究センター 第3共同研究室(一八日)・第3共同研究室(一九日)

報告 七月一日(金)

一三・三〇～一五・三〇 「十字架を背負う者たち…西洋宣教運動と明治期における日本プロテス

タントの発展を比較して」

アンドリュース・H・アイオン (Royal Military College of Canada カナダ王立軍事大学)

一五・三〇～一七・三〇 「James Scarth Gale 牧師の英韓辞典の編纂作業について」

李 漢燮 (高麗大学校)

討 論 七月一九日(土)

一〇・〇〇〇一・三〇 アイオン教授、李教授の報告に対するコメントと討論

一一・三〇〇一三・〇〇 「東アジア文化・社会におけるプロテスタント宣教師の役割と影響」を

焦点にした共同研究発足に向けての検討

以
上